

1-23 松前海台の海底地形・地質構造

Submarine topography and geological structure of Matumae Plateau

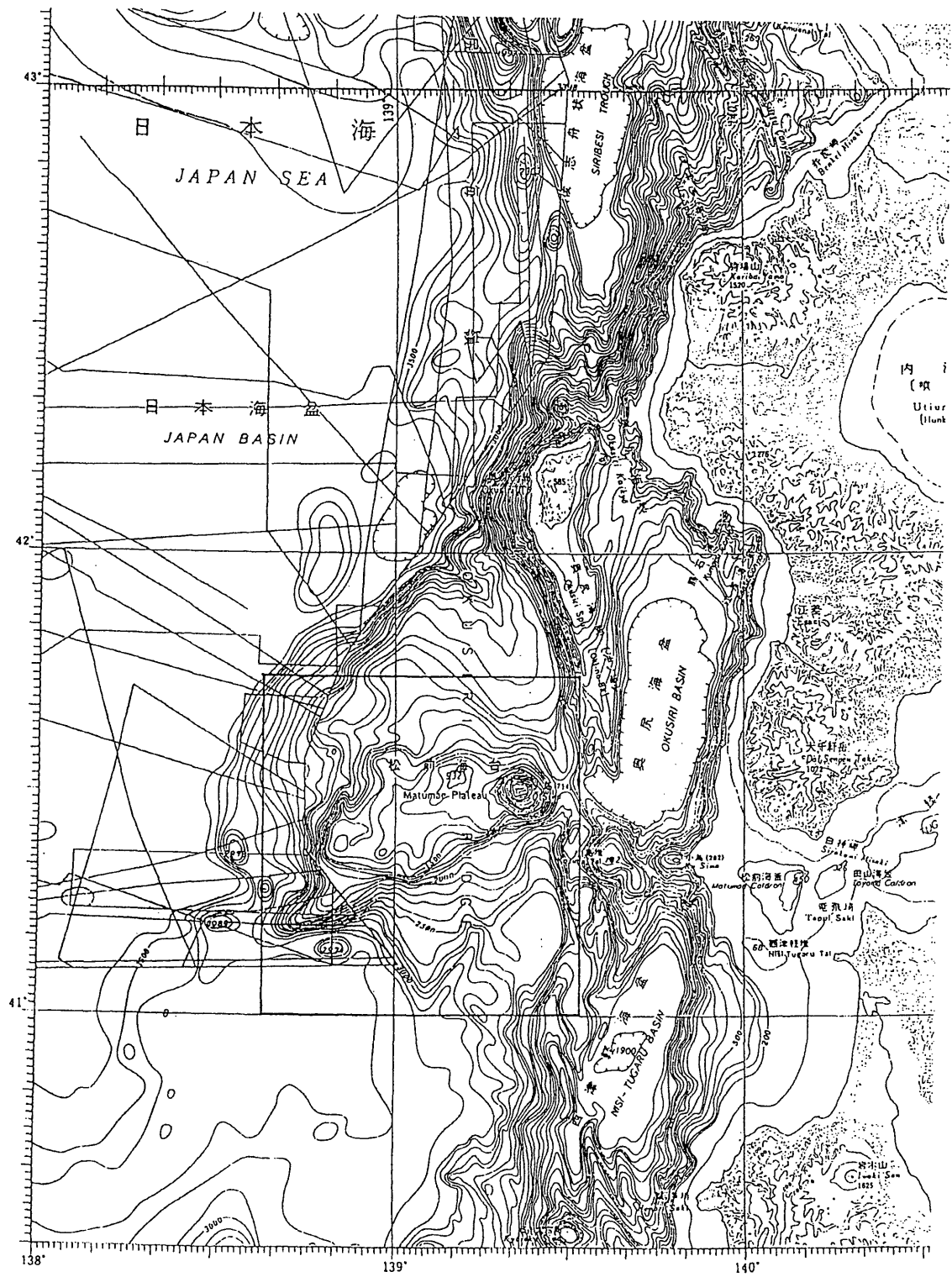
海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部では、1993年8月に松前海台周辺の海域において、測量船「明洋」によりシービーム2000による海底地形および音波探査（エアガン方式）による地質構造調査を実施したので、概報する。

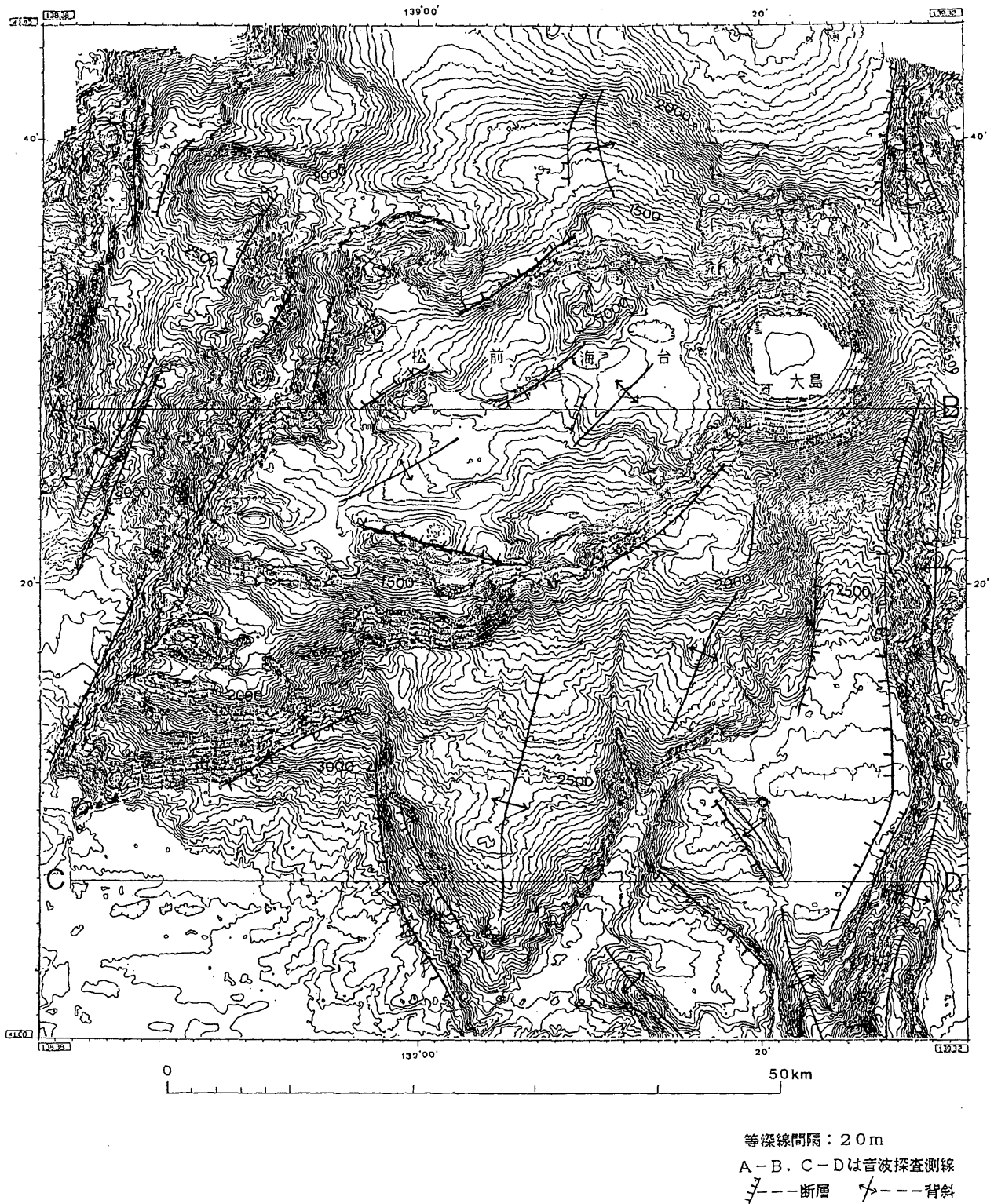
調査海域の東端には奥尻海嶺がほぼ南北方向に走り、中央には大島を含む松前海台の浅所が存在する。松前海台の北側および南側斜面は緩傾斜の平坦面を形成し、西側斜面は日本海盆に達する急斜面を形成している。同海域とその北側および南側の海底地形とを比較すると、松前海台が日本海盆に張り出す特異な地形を示している（第1図）。

第2図に海底地形・地質構造図を、第3図に音波探査断面を示す。松前海台は、全体的にみると北東-南西方向を持つ比較的平坦な海底の高まりで、海台の頂部には水深900~1300mの小海丘が断続的に存在し、所々に凹地を形成している。この小海丘は、基盤の高まりであり、北東-南西、東西方向の断層によりブロック化し、斜面は階段状に落ち平坦部は堆積盆を形成している。奥尻海嶺の西側斜面は、海嶺を横切る凹地で境されながらほぼ南北方向の西側落ち断層により急崖を形成し、斜面崩壊も見られる。また、大島の北側には溶岩流あるいは地滑りによる崩壊地形が見られる。松前海台の南側斜面は、北東-南西方向の南東落ち断層により急崖を形成し、松前海台と緩斜面を2分している。この緩斜面には基盤を覆う上位層が堆積し、ほぼ南北方向の背斜構造を示し、北北西-南南東方向の断層により切られている。大島の南方には、水深2600m台の南北に細長い海盆が存在し、その西側には北東-南西および南北方向の海底谷が緩斜面を刻んでいる。松前海台の西側斜面は、北東-南西方向の北西側落ち断層により直線的な急崖を形成し、斜面上には直径3km、比高500~600mの小海丘が存在する。また、斜面の基底部には北東-南西方向の断層に沿う海底谷が存在する。



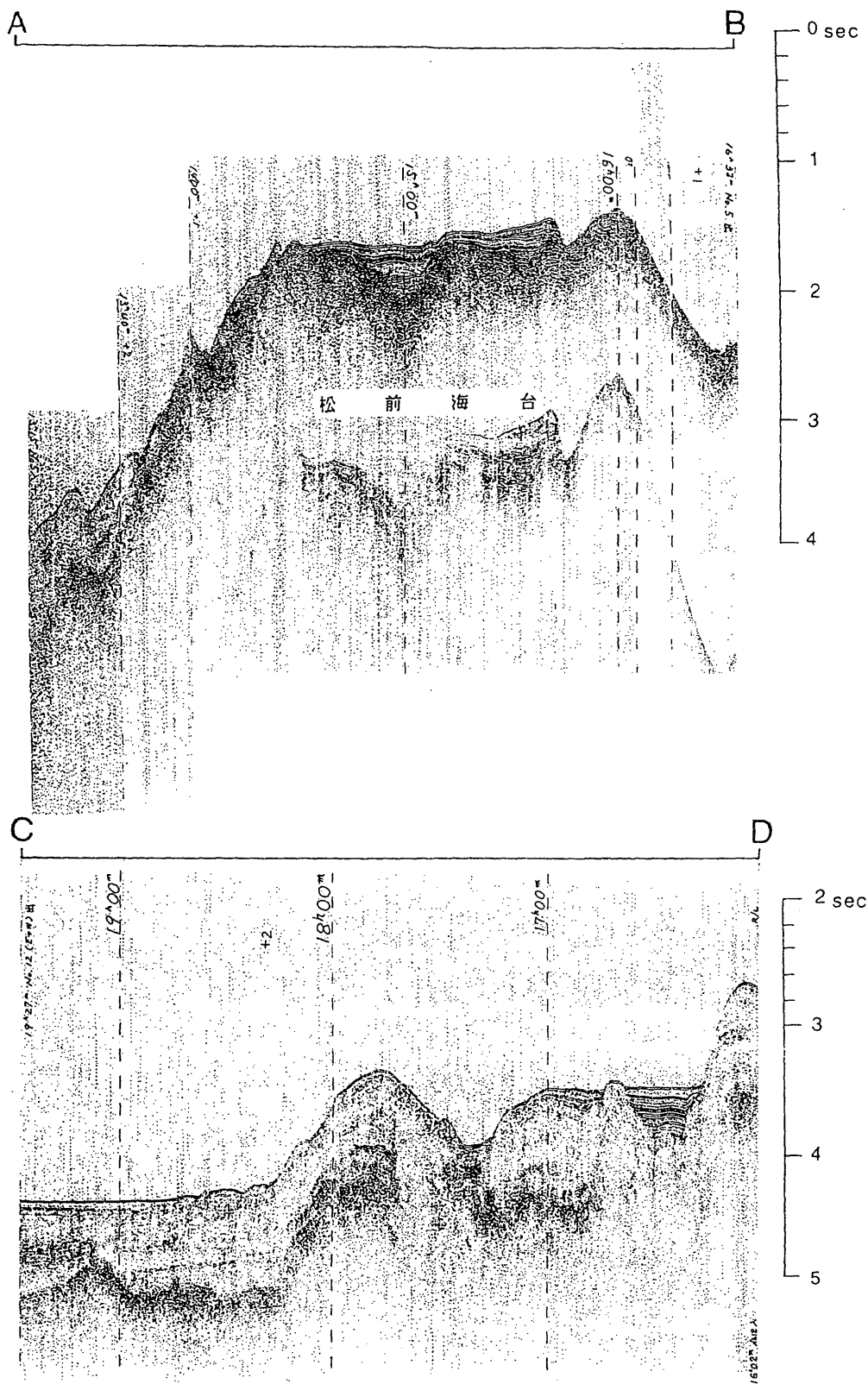
第1図 調査区域図

Fig.1 Survey area.



第2図 海底地形・地質構造図（等深線間隔50m）

Fig.2 Bathymetric and structural map of the survey area. Contour interval is 50m.



第3図 音波探査記録断面 (A-B, C-D) (測線の位置は第2図参照)

Fig.3 Seismic profile along lines A-B and C-D (See Fig.2).